

# 第 四 回 九 州 戯 曲 賞 最 終 審 査 過 程

九州地域演劇協議会まとめ

## ■ 最終審査日時等

平成24年7月7日（土） 大野城まどかぴあ

## ■ 最終候補作品（5作品）

谷岡 紗智	（福岡県福岡市）	『家出』
川津 羊太郎	（熊本県熊本市）	『憑依』
松野尾 亮	（福岡県福岡市）	『おわせてくれよ！』
福田 修志	（長崎県長崎市）	『Cargo』
川口 大樹	（福岡県糟屋郡志免町）	『グンナイ』

## ■ 最終審査員

岩松了、中島かずき、古城十忍、横内謙介、松田正隆

## ■ 審査結果

大賞	谷岡 紗智	（福岡県福岡市）	『家出』
大賞	川津 羊太郎	（熊本県熊本市）	『憑依』

## ■ 授賞方針等

- ・ 大賞作がでた場合、原則として他の賞は出さないものとする。
- ・ 大賞作の水準に達する作品がない場合は、大賞なしとする。
- ・ 大賞作がない場合、佳作・奨励等の賞を出すことが出来る。

## ■審査過程

各作品について、審査員からの講評をおこなう

### 『家出』

久し振りに出会った幼なじみの男女の高校生。家出中の二人の会話は、思い出話や家族の話を交えながら、思わぬ方向に進んでいく。

セリフがおもしろくてセンス感じた。構造的には十分なものを持っている。心情に走らず、具体的に言葉にするのが良い。思っていることを過不足なく書いているのでぼろがでていない。最後の部分はオチをつけにいったように見えるという講評がでる。

### 『憑依』

ある姉弟の話。幼い頃はごく普通の姉弟だった二人が、母親の自殺をきっかけに、それぞれの「闇」にとり憑かれてしまう。

イメージの力があり圧倒されるようなパワーがある。言葉の粘りは圧倒的、母親の死の描写もよい。作家が想像すべきところを怠けていない真摯さを感じたという評価が出る。一方、男女のプロセスが通俗的、手法を探っている段階ではないかという見方があった。

### 『おわせてくれよ!』

音楽で生きることを諦めた兄と、兄を慕うロックスターの弟の兄弟関係を軸に、「おう者、おわれる者」の関係性を描いた作品。

作品内の事象について作者本人がどう感じているか、作家としての評価が書かれていない。自分の言葉を探すのはしっかり書けるテーマ。もっと突っ込んで欲しいところにあまり触れていってないとの指摘があった。

### 『Cargo』

精霊を信じ自然と共存する村に異国から文明がやって来て、そして去る。残された者たちは、その文明に憧れ、模倣し、その再来を待つ。

冒頭のシーンは面白いが後半が凡庸になっていく。取り上げた題材は良い。描きたい狙いもわかるが、作家の中で世界が構築されておらず、外への緊張が描かれていないので、内側の緊張が伝わらない。想像すべきことがまだあるという講評があった。

### 『グンナイ』

東南アジアの小さな島に8年の時を経てかつての野球部の仲間たちが集まる。幸福な日々

を過ごしているかに見えた彼らの、それぞれが抱えている問題が徐々に浮き彫りになる。作者の良いところであった人間関係のすれ違いの面白さが、野球賭博など余計な要素が入ってきて消えてしまった。得意技を封じて、終わりを暗くする必要はないのではないか。舞台上に見えている以外の外側の世界が描けていないという講評が寄せられた。

(休憩)

一人持ち票2票にて1回目の投票を行う。

『家出』5票

『憑依』5票

『家出』『憑依』の二作品に絞って討議を行うが結論に至らず、大賞であれば一作品投票、佳作であれば二作品投票していいものとして2回目の投票を行う。

『家出』1票 (佳作として3票)

『憑依』1票 (佳作として3票)

投票結果を受け、審査を続けるが結論に至らず、大賞にふさわしい一作品を選ぶとしての3回目の投票を行う

『家出』2票

『憑依』3票

投票結果ならびに受賞方針等を踏まえた上でさらに議論を重ね、最終的に『家出』『憑依』の二作品が大賞に値する作品であるという審査員の意見の一致を見て、『家出』『憑依』が大賞作品として選定された。